

「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)

進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって

「理想」を創造する

厳しい時代の中で 生き残るためには

江府町にはサントリープロダクツ株式会社、株式会社サンエス、株式会社グリーンステージなど、奥大山の水を使ったミネラルウォーターや氷を作る企業が誘致企業として何社も操業されています。また、町が大株主である地域振興株式会社も、ミネラルウォーターの製造に事業を絞ってから、収支は上向きになっています。まさに、江府町が水の恩恵を受けていることがよく現れていると思います。

さて、1月15日に「奥大山のおいしい水」を製造販売されている株式会社サンエスの設立70周年記念感謝の集いに出席させていただきました。私たちになじみの深いのはミネラルウォーターの製造、販売ですが、創業時は繊維事業、その後、半導体を始めとした電子機器などの開発、製造、販売へと、時代の流れに合わせて事業を拡大



▲株式会社サンエス設立70周年記念の集いの様子

されてこられました。現在は、「安全」「健康」「環境」「介護」をキーワードに、新しい事業の展開もされています。一般的に企業が70年間も繁栄し続けるのはまれなことだと思います。その秘訣の一つが、社員の行動指針となる社訓ではないかと私は思いました。「良い品を 創意と熱意と人の和で」。これを役場に置き換えると、次のようになると思います。「町民のみなさんに満足いただけるサービスを、独創的な考え方で、仕事に対する熱意を持って、現場職員の総力を結集して提供し続ける」。厳しい時代の中で、生き残るために、ぜひ取り入れてみたいと感じました。

「3000人の楽しい町」 プロジェクトチーム活動報告

今年度のプロジェクトチーム活動も、まとめの時期に入りました。今年度は『支え合いのまちづくり』をテーマに、講演・ワークショップで生活支援体制活動づくりに取り組み、支え合いのチームである協議体結成の基礎づくりを行うとともに、2年目に取り組んだ新庁舎への提案が形になっていく過程をお知らせする機会をつくりました。プロジェクトチーム1年目の活動を通して見えた課題「対話の場づくり」「情報の共有」「役場の業務改善」の3つについて次年度以降の取り組みにつなげてきたところですが、ワークショップを重ねることでたくさんの小さな声を聴き、そこから進んでいく仕事の方向を公開することで情報の共有を図る…多くの方が参加し、意見や提案をくださることで、そういう「スタイル」を少しずつ作り上げることができてきたのではないかと考えています。

このような中、もう少し掘り下げて具体化したのが、3つ目の課題である「役場の業務改善」です。2年目の「親しみのあるみんなの庁舎を考えよう」で、少し現状について話し合ったものの、改善に向けてどう行動するか…までには及んでいませんでした。人口減少や高齢化の中で様々なニーズに柔軟に対応していくことが必要とされる役場の仕事を、気持ちよく効率よく進めるための業務改善。今、国を挙げて働き方改革が叫ばれているところですが、江府町でも新庁舎建設を機に、書類の整理や仕事のムダの見直しなどを通じて、よりよい職場環境づくりが求められています。仕事のやり方を改革していくことで、「対話の場」を増やし、より多くの情報を共有することこそが、協働のまちづくりの深化につながっていくと思います。

プロジェクトチームは、自らの思いをもって手を挙げた若手職員により構成されるため、毎年、メンバーが入れ替わりますが、活動を通して見えてきた課題は、全職員が共有すべきものです。時代の変化はめまぐるしく、日々の業務や働き方の改革にはゴールはありませんが、今年度あと2ヶ月で、次年度の活動テーマを見えるものにして着地したいと考えています。

動画で町報こうふ!



以前の報告会の様子は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。